

那須平成の森は、2011年に日光国立公園の一部として一般公開された。フィールドセンターは、森の拠点施設であり、ふれあいの森と学びの森への入り口となっている。

ビジターは、ふれあいの森を自由に散策したり、フィールドセンターが提供する四季折々の見どころに焦点を当てた無料ミニプログラム（30分のガイド付き散策）に参加することができる。ふれあいの森へは3つの回路がある。最も長い約3kmのルートは、駒止の滝観瀑台に通じている。それより短いルートの場合、1kmの小径を利用することができる。3つ目のルートはわずか300mだが、全て車椅子で巡ることができる。

学びの森への立ち入りは、森を教材として利用することと、将来の世代のために自然環境を保護することのバランスを保つために制限されている。ビジターは、「インタープリター」が引率する事前予約が必要なガイドウォークに参加することで、学びの森に入ることができる。ガイドは、植物と動物の相互依存性について説明し、見落としがちな動物の活動の形跡を見つけ、単に目に見えるものだけでなく、音や、香り、触感を使って周りの環境を理解するよう参加者たちに促す。学びの森のハイキングコースは、かつて皇族方が使用されていた道をたどっている。

フィールドセンターには、森林生態学に関する展示や、御用邸から国立公園となった経緯を説明する展示もある。スタッフがガイドウォークを手配したり、森や地域の情報を提供したりしている。建物も環境に配慮されており、トイレは周囲の生態系への影響を最小限に抑えるように設計されている。

フィールドセンターの屋外コーヒーショップでは、地元の企業が少量ずつ自家焙煎したコーヒーを日替わりで提供している。コーヒー愛好家にお勧めである。